

会 議 録

会議名 (審議会名)	第45回相模原市地域包括支援センター運営協議会		
事務局 (担当課)	地域包括ケア推進課 電話042-769-9231 (直通)		
開催日時	令和7年1月23日(木) 午前10時～11時30分		
開催場所	ウェルネスさがみはらA館7階 視聴覚室		
出席者	委員	18人(別紙のとおり)	
	事務局	11人(地域包括ケア推進部長ほか)	
	その他		
公開の可否	<input checked="" type="checkbox"/> 可 <input type="checkbox"/> 不可 <input type="checkbox"/> 一部不可	傍聴者数	0人
公開不可・一部不可の場合は、その理由			
会議次第	<p>1 開 会</p> <p>2 報 告</p> <p>(1) 地域包括支援センターに関する関係法令等の改正について</p> <p>(2) 相模原市地域おでかけサポート推進事業について ※旧地域ケア推進会議関連</p> <p>3 議 題</p> <p>(1) 地域包括支援センターの事業に係る評価結果について</p> <p>(2) 地域包括支援センターの事業に係る評価指標の見直しについて</p> <p>(3) 市域レベルの課題検討について ※旧地域ケア推進会議関連</p> <p>(4) 地域包括支援センターの移転等について</p> <p>4 閉 会</p>		

審 議 経 過

1 開会

2 報告

(1) 地域包括支援センターに関する関係法令等の改正について
事務局より資料及び事前質問等一覧に基づき報告を行った。

(2) 相模原市地域おでかけサポート推進事業について ※旧地域ケア推進会議関連
事務局より資料及び事前質問等一覧に基づき報告を行った。意見等は次のとおり。

(水上会長) 本事業を実施している団体で、費用を徴収している団体と徴収していない団体はあるか。

(事務局) 組織的に活動している団体や、小規模に活動している団体などがあり、補助金を超えた運営資金を必要としていない団体もあります。そのため、費用を徴収している団体と徴収していない団体にばらつきがあります。

(水上会長) 市民からすると、地域により格差があるなどの問題が出てくるかもしれないため、そういうことがあれば、また報告をお願いしたい。

3 議題

事務局より資料に基づく説明及び事前質問等一覧にて市の考え方の説明を行った。

(1) 地域包括支援センターの事業に係る評価結果について
議題のとおり承認された。意見等は次のとおり。

(坂本委員) 地域包括支援センター（以下「包括」という。）の職員に残業理由について聞くと、職員の能力に差があると言っている。我々も、地域で色々なケアをしているが、職業としての関わりでないものは継続が難しく、これからますます包括が重要となる。しかし、人材を集める必要があるのに職種の割には給料が安く、定着率が悪いのはそこに原因があると思う。昨年の処遇改善加算は、とても助かったと聞くが、人件費そのものについて検討して欲しい。

(水上会長) 業務内容が改善し、達成できている包括が多くある一方で、未達成項目の内容では3職種の配置が改善されておらず、将来的な不安要素があると感じる。例えば、3職種配置が未達成でも、その場の人材で対応できていれば、良いかと思う一方、職種の多様性の確保や、より幅広い視点から対応ができる職種であるならば、その職種が必要だとも感じるその点について市はどのように考えているか。今はよくても5年、10年後にこの体制が維持できるのか、人材不足になるのではないか、お聞きしたい。

(事務局) 介護業界の人材不足は危機的な状況で、喫緊の課題として捉えております。包括に限らず介護業界の人材不足の解消に向けて、取り組んでおりますが、人件費はかなり大きな要素と考えているため、制度改正や報酬改定を、国に対して要望するなど、引き続き、解決に向けた取組を進めてまいります。

(水上会長) 国の方針もあると思うが、給与面などの金銭だけの問題だけではなく、市が独自に取組める方策があれば、報告をいただけると嬉しい。

(2) 地域包括支援センターの事業に係る評価指標の見直しについて

議題のとおり承認された。意見等は次のとおり。

(坂口委員) 包括的・継続的ケアマネジメント支援事業で、検証できる事業者が少なく、公平な評価ができないとあるが、なぜできないのか。

(事務局) 本評価は、全ての包括が評価対象ですが、現時点で介護予防支援の指定を受けている事業所数は、緑区が2箇所、中央区が5箇所、南区が3箇所、市内合わせても10箇所となっております。指定を受けている事業所がない圏域は、この評価ができないため、全市的な評価をする段階ではないと考えています。

(坂本委員) 居宅介護支援事業者と包括の連携について、対象者を居宅介護支援事業者につなぐ前は関わるが、つないだ後は関わりが少ない。仕事量としては大変だと思うが、連携だけは行って欲しい。

(3) 市域レベルの課題検討について

議題のとおり検討された。意見等は次のとおり。

(坂本委員) 地域ケア会議に、医師に参加してもらいたい場合は、医師会に依頼すると参加してもらえるのか。

(水上委員) 私は地域ケア会議に参加しているが、医師会からの依頼ではなく、包括から依頼を受けているため、他の圏域も各包括から医師に対し、個別に依頼をしていると思う。

(坂本委員) 地域に理解を示す医師がいるとよいが、忙しく難しい状況である。

(水上会長) 地域ケア会議が実施される平日の日中は診療があることや、多くの患者を診ている医師もいるため、対応が難しい実情がある。

(坂口委員) 自治会を中心に活動している立場から、4点の課題について話したい。

1点目は、高齢者のゴミ出しについて、包括を通じてシルバー人材センターなどに依頼をしていたが、なかなか進まず、近所の人たちで相談をして、「ついでのゴミ出し」をみんなですることとなった。

2点目は、在住地域には、「思い愛ネットワーク」というボランティア団体があるが、阪神淡路大震災の教訓を踏まえ、地域として日頃の声かけにより、安心して暮らせるまちにしたいと民生委員や自治会ボランティアが中心となって支援活動をしている。

1998年に発足し、現在、ボランティアが約150名、見守りなどの支援希望者が約130名いる。今後、ゴミ出しが困難な方などの対応をしていこうと話している。

3点目は、「いきいき百歳体操」を行っているが、参加者が増え、感染症対策として人数を分散し、6回開催することとなった。そのため、それぞれの回のリーダーが必要になり話し合ったが、リーダーになるならやめるなどと話合いが難航したため、皆でリーダーをやろうと決めた。今は全ての人々がリーダーとなって実施している。

悠々シニアスタッフについても、話し合いを行った結果、鹿沼公園周辺を散歩する会の立ち上げが検討されていたが、誰がリーダーになるかの話が出て、上手くいかなかった。やはり責任者やリーダーという話になると上手くいかない。そこを上手くやらないと、これからの高齢化社会で、高齢者が担い手をやめていくことになる。

4点目は、自治会の加入世帯数について、この5年間で208世帯から180世帯に減ってしまった。新しい会員募集が進まず、会員が減ってしまうことが一番の問題である。このままでは自治会は崩壊してしまうため、買い物に行ける高齢者などに役員を担ってもらい、その人たちができる範囲内での行事にするなど、自治会活動の簡素化を検討している。

(水上会長) 高齢になるにつれ、今までできていたことが、だんだんできなくなっていくという非常に難しい課題があるため、この議題に関しては皆さまから色々な意見を頂きたい。ゴミ出しやいろいろな課題があるが、これは行政が事業化することではなく、地域にある人や資源を活用することで、地域コミュニティの活性化や、孤立の予防を図るということなのか。

(事務局) 防災の体制の構築など、昔は行政で担っていた業務について、この数十年、さまざまな面で、出来る限り地域の力で担えるものは共に考え、協働で課題解決していくことが、政策として進められてきた経過があります。この地域ケア会議も、地域の中で解決が図られるべきというところもありますが、高齢化が進む中、担い手確保が難しくなる一方、増大している地域課題に対応する必要があります。例えば、移動支援の問題、買い物困難など、喫緊で対応しなければいけない部分については、行政として個別の施策を実施しております。活動費を公費で担う事業や、ボランティアであっても公費で支援する事業、あるいは、無償のボランティアで実施していたところも、利用者負担を取り入れるなど、地域の自立的な活動により、持続的な取組が求められている、現在はそんな過渡期になっていると考えております。

(水上会長) それでは今回の議題は、地域の課題を明確にすることが目的であって、市民同士の付き合いやボランティアだけでなく、業務や福祉施策、介護施策の一環として市で考えていくべきなら、有償ボランティアなども可能性としては考えていく。そういうことでよろしいか。

(事務局) はい

(水上会長) 地域の人たちが自主的に参加できる場をどう作るか考えられると良い。実際どのような課題があるか、担い手確保や発掘を効果的に推進するための支援方策について検討したい。地域行事を誰が企画し準備するのか、ではリーダーは、という話になると、誰もできないとなる。自治会活動や地域毎のお祭りが、地域のニーズと合っていないから参加しなくなっているなどもあり得る。坂口委員からは自治会の対策についての話があったが、このような高齢化の状況も含め、地域老人クラブ連合会からご意見はあるか。

(島山委員) 老人クラブ連合会は会員が1万人程度で、例年88歳の高齢者にお祝いを渡し、今年も1,600人程度に送付している。また、65歳以上の方向けに担い手講座を開いており、市内3区で年2回ずつ実施している。坂口委員の話があったように、その中で担い手として声をかけても、なり手は少なく、この10年間で会員は

8,000人程度減少している。そのような問題により、悪循環で解散に至るなどの現状がある。今後も積極的に担い手講座を開きたいとは思っているが、心配も多い。(竹田委員) 私の住んでいる地区は、地区社協が中心となって色々な要望に応じており、年末年始で非常に多かったのが蛍光灯の取替えだった。実際に活動を行っているのは有償ボランティアで、有償のほうが頼みやすいというところから始まっている。5年以上取組んでいるが、草とりやゴミ出しなどの需要もある。マンションの上の階から、ゴミを片手に必死で降りてきた人に対し、近所の人ゴミをゴミ置き場まで代わりに持って行くということもある。私が地域を歩いている時、「このゴミを持ってほしい」と言われたことがあるが、地域のなかで「この人見たことがある」ということが、非常に大切だと思う。他に、包括について話したいことがある。私は要支援認定を受け、包括と契約の書類を交わした。そのときは紙の契約書にサインをしており、今時、紙を使用しているのかと驚いた。紙を使用すると、ファイルする作業まで必要になる。近年は業務のIT化が進められているが、包括では仕事量が多すぎるという話もある。そのようなことについて、包括から市に対し、声を挙げてもらう仕組みが必要ではないか。

(小林委員) 担い手確保の課題は、地域活動についてすべてに当てはまる。原因として、以前は60歳で定年し、地域デビューする中でボランティアに参加する方が多かったが、今は70歳になっても働いている人が多く、ボランティア活動に時間をかけるような人がいない。そうした中では、ボランティアとして、改めて構えないことが大切。ボランティアセンターの活動では、車で対象者宅へ出向き、ゴミ出しを行っている人がいるが、そういうことではなく、自身がゴミ出しを行う道中に、近所の人ゴミを一緒に持っていくなど、自分ができる範囲での活動が必要。最近では、企業としての地域貢献や、現役世代の地域活動への理解も高まってきているため、「自分ができる範囲で」と声をかけることが、必要である。

(水上会長) 基本的に以前は60歳で定年を迎え、そこから第2の人生、という時代だったかもしれない。今や、いつ年金がなくなるかわからないため働き続けないと生活が保てない。ボランティアよりまず自分の生活が成り立たないのに、他の人のボランティアはできないと、余裕がないこともある。他に意見を頂ける方はいるか。

(松崎委員) 私は商店街の事務局をしているが、そんなに担い手がいらないのかと思う。お祭り開催では、声をかければ400人以上のボランティアが集まる。今週もイベントを開催予定だが、当日の2週間前から声をかけ始め、120人以上のボランティアが集まった。誰に、どこまで声をかけているか、どういう繋がりを持っているかが、大切。近くの学校の学生に依頼をすると、快く引き受けてくれる。地域は、現役世代に注目することが多いが、学生など若い世代も巻き込むことで、うまくいくこともある。

(水上会長) 確かに、学生時代にボランティア活動を経験し、社会人になることは、とても大切であり、若い世代を巻き込むことは大切な視点。

(坂本委員) イベントで募集する単発のボランティアと、日常的に継続が必要なボランティアは、分けて考える必要がある。単発のボランティアは、イベントの内容でいくらでも人が集まるが、継続は難しい。最大の課題は、継続的な担い手のボランティア

が少なくなっていること。今後は、定年後はボランティアを行い、活動が難しくなれば、ボランティアを受ける側になるという循環ができれば良い。若い世代の協力も得ながら、良い方向性になればと思う。

(松崎委員) 近隣の大学には福祉学科があり、ボランティアの相談をすると、学生同士がサークルを立ち上げてくれることもある。サークルを立ち上げた学生はいずれ卒業するが、活動を後輩に引き継ぎ、地域と継続した関わりを持ってくれるため、継続したボランティア活動への参加についても検討材料になる。

(渡辺委員) 私は障害者の就労支援事業所B型（以下「B型」という。）を運営しており、B型の利用者が行う活動の一つとして、総合事業のシニアサポート活動を活用できないかと考えた。例えば、草取りや窓ふき、エアコンのフィルター掃除はかなり需要がある。その際は要件が整わず諦めたが、担い手不足というところで、就労支援事業との結びつきができないかを感じる。B型は中央区で58か所ほど地域に点在しており、障害をもつ利用者が社会参加をすることで、地域との繋がりができ、費用が発生すれば利用者の工賃につながるため、そんな素敵な結びつきができると良い。

(水上会長) 今、話があったように、点と点をどう繋いでいくか、マッチングができるかが次の課題。今回はこの議題でいろいろと可能性も見えた。次回も、こんな取組やマッチングはどうだろうかという議論を是非お願いしたい。

(4) 地域包括支援センターの移転等について 議題のとおり承認された。

4 閉会

以 上

相模原市地域包括支援センター運営協議会委員名簿

令和7年1月23日(木)開催

No.	委員名	ふりがな	選出団体	出欠席	備考
1	石井 和子	いしい かずこ	相模原市民生委員児童委員協議会	出席	
2	石川 寿美子	いしかわ すみこ	相模原市介護老人保健施設協議会	出席	
3	梶山 和美	かじやま かずみ	神奈川県看護協会	出席	
4	小林 輝明	こばやし てるあき	相模原市社会福祉協議会	出席	
5	坂口 芳郎	さかぐち よしろう	公募市民	出席	
6	坂本 洋三	さかもと ようぞう	相模原市22地区社会福祉協議会	出席	
7	佐々木 美保	ささき みほ	相模原市高齢者福祉施設協議会	出席	
8	澤田 弘之	さわだ ひろゆき	相模原市薬剤師会	出席	
9	竹田 幹夫	たけだ みきお	相模原市自治会連合会	出席	
10	田中 雄一郎	たなか ゆういちろう	相模原市歯科医師会	欠席	
11	谷 樹人	たに たつる	神奈川県弁護士会	出席	
12	徳田 富美子	とくだ ふみこ	友知草の会	出席	
13	内藤 優子	ないとう ゆうこ	さがみはら介護支援専門員の会	出席	
14	畠山 秀美	はたけやま ひでみ	相模原市老人クラブ連合会	出席	
15	久松 信夫	ひさまつ のぶお	学識経験者	出席	副会長
16	布施 寛	ふせ ひろし	日本公認会計士協会神奈川県会	欠席	
17	前田 京美	まえだ きょうみ	神奈川県社会福祉士会相模原支部	出席	
18	松崎 貴義	まつざき たかよし	公募市民	出席	
19	水上 潤哉	みずかみ じゅんや	相模原市医師会	出席	会長
20	渡辺 真由美	わたなべ まゆみ	公募市民	出席	

五十音順